

ボイラーを変更する場合の記入例です

様式第1

該当するもの以外は二重線で消してください。

ばい煙発生施設設置(使用、変更)届出書

作成日を記入します。

令和3年 4月 1日

東京都知事 殿

株式会社 東京
東京都新宿区西新宿2-8-1
届出者 代表取締役社長 東京 太郎
郵便番号(163-8001) 電話番号(03-5321-1111)
(氏名又は名称及び住所並びに法人にあってはその代表者の氏名)

大気汚染防止法第6条第1項(第7条第1項、第8条第1項)の規定により、ばい煙発生施設について、次のとおり届け出ます。

| | | | |
|---------------|-------------|--------|--|
| 工場又は事業場の名称 | 西新宿ビル | ※整理番号 | |
| 工場又は事業場の所在地 | 新宿区西新宿2-8-1 | ※受理年月日 | 年 月 日 |
| ばい煙発生施設の種類 | 1項 ボイラー 1基 | ※施設番号 | |
| ばい煙発生施設の構造 | 別紙1のとおり。 | ※審査結果 | |
| ばい煙発生施設の使用の方法 | 別紙2のとおり。 | ※備考 | 部署名、担当者名、電話番号を記入します。 |
| ばい煙の処理の方法 | 別紙3のとおり。 | 連絡先 | 部署名 施設課 担当者名 田中次郎 電話番号 5321-0000 |

- 備考
- 1 ばい煙発生施設の種類欄には、大気汚染防止法施行令別表第1に掲げる項番号及び名称を記載すること。
 - 2 ※印の欄には、記載しないこと。
 - 3 変更届出の場合には、変更のある部分について、変更前及び変更後の内容を対照させること。
 - 4 届出書及び別紙の用紙の大きさは、図面、表等やむを得ないものを除き、日本産業規格A4とすること。

ばい煙発生施設の構造

施設の種類を記入してください。
 例：貫流ボイラー
 炉筒煙管ボイラー
 セクショナルボイラー
 水管ボイラー
 浴場用ボイラー
 冷温水発生機
 真空式温水発生機
 無圧式温水発生機 等

| 工場又は事業場における施設番号 | | R-1 (変更前) | R-1 (変更後) |
|-----------------|------------------------------------|--|--|
| 名称及び型式 | | 炉筒煙管ボイラー | 炉筒煙管ボイラー |
| 設置年月日 | | 年 月 日 | 年 月 日 |
| 着手予定年月日 | | 年 月 日 | 令和3年 7月 1日 |
| 使用開始予定年月日 | | 年 月 日 | 令和3年 7月 15日 |
| 規 | 伝熱面積 (m ²) | 11.1m ² | 11.1m ² |
| | 燃料の燃焼能力 (重油換算L/h) | 79 L/h 油圧式バーナー | 116 m ³ N/h (72.5 L/h) ガスバーナー |
| | 原料の処置能力 (t/h) | | |
| | 火格子面積又は羽口面断面積 (m ²) | バーナーの種類を記入してください。 (例) | ガスの場合はガスの燃焼能力 (単位:m ³ N/h)を記入し、重油換 算値は、その値を 1.6 で除した 値(単位:L/h)をカッコ内に示し てください。 |
| | 変圧器の定格容量 (kVA) | ・液体燃料 油圧式バーナー 回転式(ロータリー)バーナー 高圧気流式バーナー 低圧空気式バーナー | |
| | 触媒に付着する炭素の燃焼能力 (kg/h) | ・気体燃料 ガスバーナー 低NO _x バーナー | |
| | 焼却能力 (kg/h) | | |
| | 乾燥施設の容量 (m ³) | | |
| 模 | 電 流 容 量 (kA) | | |
| | ポンプの動力 (kW) | | |
| | 合成・漂白・濃縮能力 (kg/h) | | |

- 備考 1 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届出の場合には設置年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。
- 2 規模の欄には、大気汚染防止法施行令別表第1の中欄に掲げる施設の当該下欄に規定する項目について記載すること。
- 3 ばい煙発生施設の構造概要図を添付すること。概要図は、主要寸法を記入し、日本産業規格 A4 の大きさに縮小したもの又は既存図面等を用いること。

高位発熱量を記入します。

別紙1と同じ

ばい煙発生施設の使用の方法

| 工場又は事業場における施設番号 | | R-1 (変更前) | | | R-1 (変更後) | | |
|--------------------------|------------------------------------|-------------------------------|-----------|----------|-------------------------------|-----------|-----|
| 使用状況 | 1日の使用時間及び月使用日数等 | 8時～17時 9時間 1回 25日 回 日 月 | | | 8時～17時 9時間 1回 25日 回 日 月 | | |
| | 季節変動 | 暖房用(11月～4月) | | | 暖房用(11月～4月) | | |
| 原材料(ばい煙の発生に影響のあるものに限る。) | 種類 | 用途を記入します。 | | | 用途を記入します。 | | |
| | 使用割合 | | | | | | |
| | 原材料中の成分割合(%) | いおう分 カドミウム分 | 鉛分 | | いおう分 | 鉛分 弗素分 | |
| | 1日の使用量 | 軽油、灯油、LSA重油等 記入します。 | | | 軽油、灯油、LSA重油等 記入します。 | | |
| 燃料又は電力 | 種類 | A重油 | | | 都市ガス13A | | |
| | 燃料中の成分割合(%) | 灰分 0 | いおう分 0 | 窒素分 0 | 灰分 | いおう分 | 窒素分 |
| | 発熱量 | 39,100 kJ/L | | | 45,000kJ/ m ³ N | | |
| | 通常の使用量 | 46 L/h | | | 69.6 m ³ N/h | | |
| | 混焼割合 | 100% | | | 100% | | |
| 排出ガス量(m ³ /h) | 湿り | 最大 1366 | 通常 820 | | 最大 1366 | 通常 820 | |
| | 乾き | 最大 1116 | 通常 670 | | 最大 1116 | 通常 670 | |
| 排出ガス温度(°C) | | 120°C | | | 100°C | | |
| 排出ガス中の酸素濃度(%) | | 4.0% | | | 5.0% | | |
| ばい煙の濃度 | ばいじん (g/m ³) | 最大 0.1 | 通常 0.01 | | 最大 0.01 | 通常 0.01 | |
| | いおう酸化物 (容量比ppm) | 最大 0.047 | 通常 0.027 | | 最大 0 | 通常 0 | |
| | カドミウム及びその化合物 (mg/m ³) | 最大 | 通常 | | 最大 | 通常 | |
| | 塩素 (mg/m ³) | 最大 | 通常 | | 最大 | 通常 | |
| | 塩化水素 (mg/m ³) | 最大 | 通常 | | 最大 | 通常 | |
| | 弗素、弗化水素及び弗化珪素 (mg/m ³) | 最大 | | | 最大 | 通常 | |
| | 鉛及びその化合物 (mg/m ³) | 最大 | 通常 | | 最大 | 通常 | |
| | 窒素酸化物 (容量比ppm) | 最大 100 | 通常 60 | | 最大 45 | 通常 45 | |
| ばい煙量 | いおう酸化物 (m ³ /h) | 最大 0 | 通常 0 | | 最大 0 | 通常 0 | |
| 参考事項 | 低NOxバーナー使用 | | | | | | |

使用予定の燃料の成分表より記入します

設計値(メーカーの計算書)を記入

- 備考 1 原材料中の成分割合(%)については、重量比%又は容量比%の
- 2 排出ガス量及びばい煙量について(この項において「標準状態」と標準状態における排出ガス1立
- 3 ばい煙の濃度は、乾きガス中の濃度とすること。
- 4 ばい煙の濃度は、ばい煙処理施設がある場合は、処理後の濃度とすること。
- 5 参考事項の欄には、ばい煙の排出状況に著しい変動のある施設についての一工程中の排出量の変動の状況、窒素酸化物の発生抑制のために採っている方法等を記載するほか、ガスタービン、ディーゼル機関、ガス機関又はガソリン機関については、常用又は非常用(専ら非常時において用いられるものをいう。)の別を明らかにすること。

窒素酸化物の低減方法を記入してください。
例: 低NOxバーナー
排ガス再循環
蒸気噴霧
水噴射 等

別紙1と同じ

ばい煙処理の方法

| 処理施設の工場 又は事業所における施設番号 | | 煙突 (変更前) | | 煙突 (変更後) | | |
|----------------------------------|---------------------------------------|-----------------|-----|--------------|--|--|
| 処理に係るばい煙発生施設の工場 又は事業所における施設番号 | | B-1 | | 変更なし | | |
| ばい煙処理施設の種類、名称及び型式 | | 煙突 | | 煙突 | | |
| 設置年月日 | | 平成2年12月1日 | | 年 月 日 | | |
| 着手予定年月日 | | 年 月 日 | | 年 月 日 | | |
| 使用開始予定年月日 | | 年 月 日 | | 年 月 日 | | |
| 処理 の 濃 度 | 排出ガス量 (m ³ /h) | 最大 | | | | |
| | | 通常 | | | | |
| | 排出ガス温度 (°C) | 処理前 | | | | |
| | | 処理後 | | | | |
| | ばいじん (g/m ³) | 処理前 | | | | |
| | | 処理後 | | | | |
| | いおう酸化物 (容量比 ppm) | 処理前 | | | | |
| | | 処理後 | | | | |
| | カドミウム及び その化合物(mg/m ³) | 処理前 | | | | |
| | | 処理後 | | | | |
| | 塩素 (mg/m ³) | 処理前 | | | | |
| | | 処理後 | | | | |
| | 塩化水素 (mg/m ³) | 処理前 | | | | |
| | | 処理後 | | | | |
| | 弗素、弗化水素及び 弗化珪素(mg/m ³) | 処理前 | | | | |
| | | 処理後 | | | | |
| | 鉛及びその化合物 (mg/m ³) | 処理前 | | | | |
| | | 処理後 | | | | |
| 窒素酸化物 (容量比 ppm) | 処理前 | | | | | |
| | 処理後 | | | | | |
| ばい煙量 | いおう酸化物 (m ³ /h) | 最大 | 処理前 | | | |
| | | | 処理後 | | | |
| | | 通常 | 処理前 | | | |
| | | | 処理後 | | | |
| 力 捕集 効率 (%) | ばいじん | | | | | |
| | いおう酸化物 | | | | | |
| | カドミウム及びその化合物 | | | | | |
| | 塩素 | | | | | |
| | 塩化水素 | | | | | |
| | 弗素、弗化水素及び弗化珪素 | | | | | |
| | 鉛及びその化合物 | | | | | |
| 窒素酸化物 | | | | | | |
| 使用 状況 | 1日の使用時間 及び月使用日数等 | 8時～17時 | | 時～時 | | |
| | 季節変動 | 9時間/回1回/日25日/ | | 時間/回 回/日 日/月 | | |
| | 排出口の実高さ H ₀ (m) | 25.0m (○cm×○cm) | | | | |
| 補正された排出口の高さ H _e (m) | 25.2m | | | | | |
| 排出速度 (m/s) | 0.7m/s | | | | | |

煙突のみの場合は
記入不要です。

地上(GL)からの高さを記入
します。カッコ内には煙突頂
部の口径を記入してください。

変更がある場合は記入し
てください。

バーナーと燃料を変更すれば H_e
が変わる可能性があります。

陣笠がついている場合は
H₀=H_eとなります。

- 備考1 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄には設置年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。原材料中の成分割合(%)及び燃料中の成分割合(%)の欄の記載にあたっては、重量比又は容量比%の別を明らかにすること。
- 2 排出ガス量及びばい煙量については、温度が零度である(この項において「標準状態」という。)における量に、ばい煙の濃度については、標準状態における排出ガス1立方メートル中の量に、それぞれ換算したものとす。
 - 3 ばい煙の濃度は、乾きガス中の濃度とすること。
 - 4 補正された排出口の高さ H_e は、大気汚染防止法施行規則第3条第2項の算式により算定すること。
 - 5 ばい煙処理施設の構造図とその主要寸法を記入した概要図を添附すること。

添付書類

ばい煙発生施設の概要

- ①事業場への案内図(周辺地図で交通機関が分かるもの)
- ②事業場敷地内の図面(ばい煙発生施設を設置している建物を明示する)
- ③ばい煙発生施設を設置している建物全体の図面(ばい煙発生施設の位置を明示する)

ばい煙発生施設の構造・使用の方法

- ④ばい煙発生施設の構造図面(ばい煙発生施設の構造及びバーナーの図面)
- ⑤ばい煙発生施設の仕様(メーカーの仕様で伝熱面積、定格燃焼能力等)
- ⑥ばい煙に関する計算書(排出ガス量、補正排出口高さ(He)等)
- ⑦ばいじん及び窒素酸化物濃度の保証書(燃料が都市ガスの場合は窒素酸化物のみでよい)

ばい煙発生施設の処理の方法

- ⑧ばい煙発生施設から煙突までの煙道の図面(平面図にばい煙発生施設、煙道、煙突が分かるようにマーカーで示す)
- ⑨ばい煙測定を行う測定口(口径も記入)の位置が明示された平面図、立面図
- ⑩煙突の実高さが分かる図面(立面図に地上(GL)からの高さを記入する。陣笠等の有無及びその形状も記入する。)

緊急時の連絡先

- ⑪緊急連絡用の電話番号(表紙の連絡先欄に記入しても構いません。)
- ⑫緊急時における連絡方法

部数

- ・ 正本及びその写し1通